

女性に対するトライアスロン普及の研究～行動特性に着目して～

A study on spread Triathlon to women

Focus on the behavioral characteristic

1K07B224-9

指導教員 主査 原田宗彦先生

山本 実奈

副査 松岡宏高先生

【緒言】

近年、日本では人々の健康志向が高まり自分の好みのスタイルに合った運動を行う人が増えたことが挙げられる。これに伴いジョギングやランニングの人気が出ている。フィットネス性の高い3種目からなるトライアスロンは、最近では日本人選手の活躍が目覚ましく注目を集めている。その一方で、特に女性のトライアスリートが少ないことから、トライアスロン界は普及に関する課題を抱えているのが現状である。

菊池（2009）は「トライアスロンの普及に関する研究」の中で、「女性はもともと『フィットネス』に関する興味が強いため、ランニングブームが起きたことから、トライアスロンの潜在参加者が多くいる可能性は高い」と述べていることから、女性をトライアスロン参加に導く可能性は十分あると言える。そこで筆者は、今後、女性のトライアスロン参加者を増やすための参考データを示し、トライアスロン普及に貢献したいと考え本研究に臨む。

【目的】

本研究は、女性トライアスリートの行動特性を明確にすることにより、女性のトライアスロン参加者を増やすための基礎データを示すことを目的とする。

【方法】

本研究で用いるアンケート調査は、早稲田大学スポーツビジネス・マネジメント研究室が社団法人日本トライアスロン連合の依頼を受け、2010年度のトライアスロン大会会場にて訪問留置法で実施したものである。本研究では図2-1に示す10会場にて、女性から得た回答を利用し分析を行う。

調査項目は、

- (1) 人口統計的特性と行動特性に関する項目
 - (2) トライアスロンの開始及び過去のスポーツ経験に関する項目
 - (3) トライアスロンの練習に関する項目と大会参加に関する項目
 - (4) ライフスタイル項目
 - (5) トライアスロン継続に関する項目
 - (6) トライアスロンに対する意見
- の6項目から構成されている。

【結果】

有効回答数：117部

平均自由裁量所得から、金銭的余裕のある人が特別多いわけではないが、競技開始年齢の平均が20代半ばである点から、多少なりとも時間とお金に余裕を持ってから始める人が多いと考えられる。

「トライアスロンは何歳まででも続けられる」と答えた人が多い。このことより、多くの女性が生涯スポーツとしてトライアスロンに取り組んでいることがわかる。

大会開催地に観光地としての魅力や、文化的施設の有無を重視する人が多い。その一方で実際には、大会参加のついでに観光をする人が少ないというデータが出た。

来場同伴人数は「2～5人」が多かった点、「1人で旅行するより、家族や友人など仲間と旅行をするのが好き」という人が多い点から、女性のトライアスロン参加者は単独行動よりも仲間と行動することを好むことがわかる。

ライフスタイル項目については、松井（2010）確認的因子分析を実施した結果「流行」「達成」「環境配慮行動」「意志薄弱」「ブランド」「健康管理」の6因子が抽出された。因子得点の年代別平均について一元配置分散分析を行った結果、「虚無」「ブランド」「意志薄弱」「環境配慮行動」の4因子にて、10代と他の世代間で有意差が見られた。また、「健康管理」因子と「達成」因子で高い得点が出ている一方で、「虚無」因子が低い値を取っていることから、女性トライアスロン参加者は高い目標を持つことでポジティブなライフスタイルを築いていると示唆している。

【提言】

分析結果から得たデータをもとに、トライアスロンの「スポーツツーリズム」としての側面がトライアスロンの普及につながると考える。観光地としての魅力も備わった開催地を目指すことで、大会の魅力も増し参加者が増え、競技人口増加につながると考える。さらに、大会参加者が増えることで競争が激化すると考える。達成意欲が強く、高い目標を持つ傾向にある女性トライアスリートは、より高みの目標を見つけることでレベルアップを目指し、そのことがトライアスロン界全体の活性化へとつながると考えられる。